

# 口永良部島の火山活動 -2009年6月～9月-\*

## Volcanic Activity of Kuchinoerabujima Volcano, June - September, 2009

福岡管区气象台 火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台  
Volcanic Observations and Information Center,  
Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA  
Kagoshima Local Meteorological Observatory, JMA

○ 概況 (2009年6月1日～2009年9月28日)

・噴煙活動 (第1図)

遠望カメラ (新岳火口の北西約3km) により、白色の噴煙を時々観測した。

・地震、微動活動 (第1図、第2図)

火山性地震は少ない状態で経過していたが9月27日以降増加し、やや多い状態が続いている。震源は新岳火口直下のごく浅いところに分布し、これまでと比べて変化はなかった。

火山性微動は少ない状態で経過した。

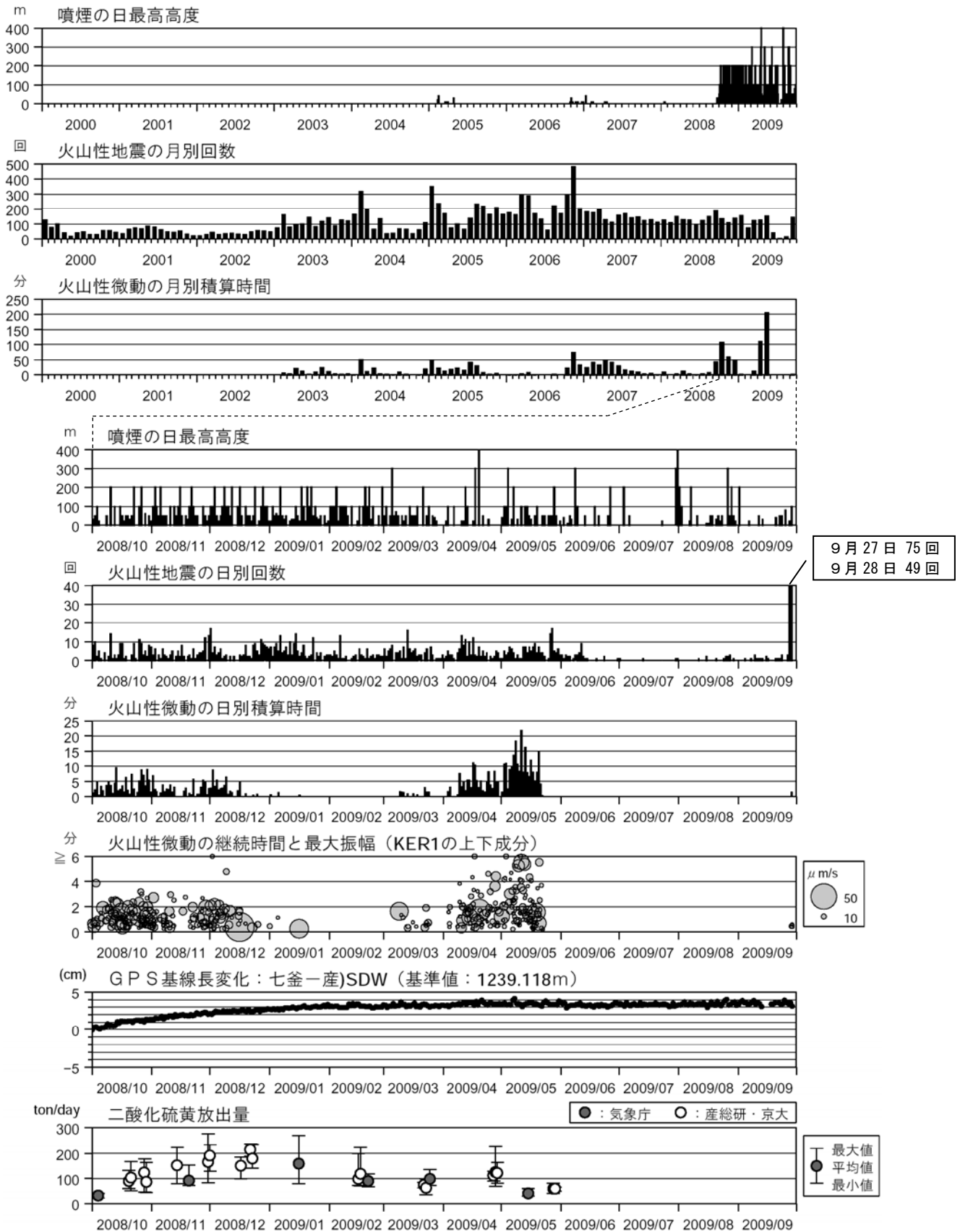
・地殻変動 (第3図、第4図)

GPS連続観測では、2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、2月頃から鈍化し6月以降認められない。

・新岳火口周辺の状況 (第5～7図)

8月20日に実施した現地調査及び9月28日に気象庁機動調査班 (JMA-MOT) が第十管区海上保安本部の協力を得て京都大学と合同で行なった上空からの観測では、新岳火口及びその周辺の状況に変化はなく、新岳南側火口壁で引き続き噴煙活動が認められた。

※この記号の資料は気象庁のほか、京都大学、国土地理院及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータを利用し作成した。



第1図※ 口永良部島 火山活動経過図 (2000年1月1日～2009年9月28日)

Fig.1※ Volcanic activity of Kuchinoerabujima Volcano (January 1, 2000 - September 28, 2009).

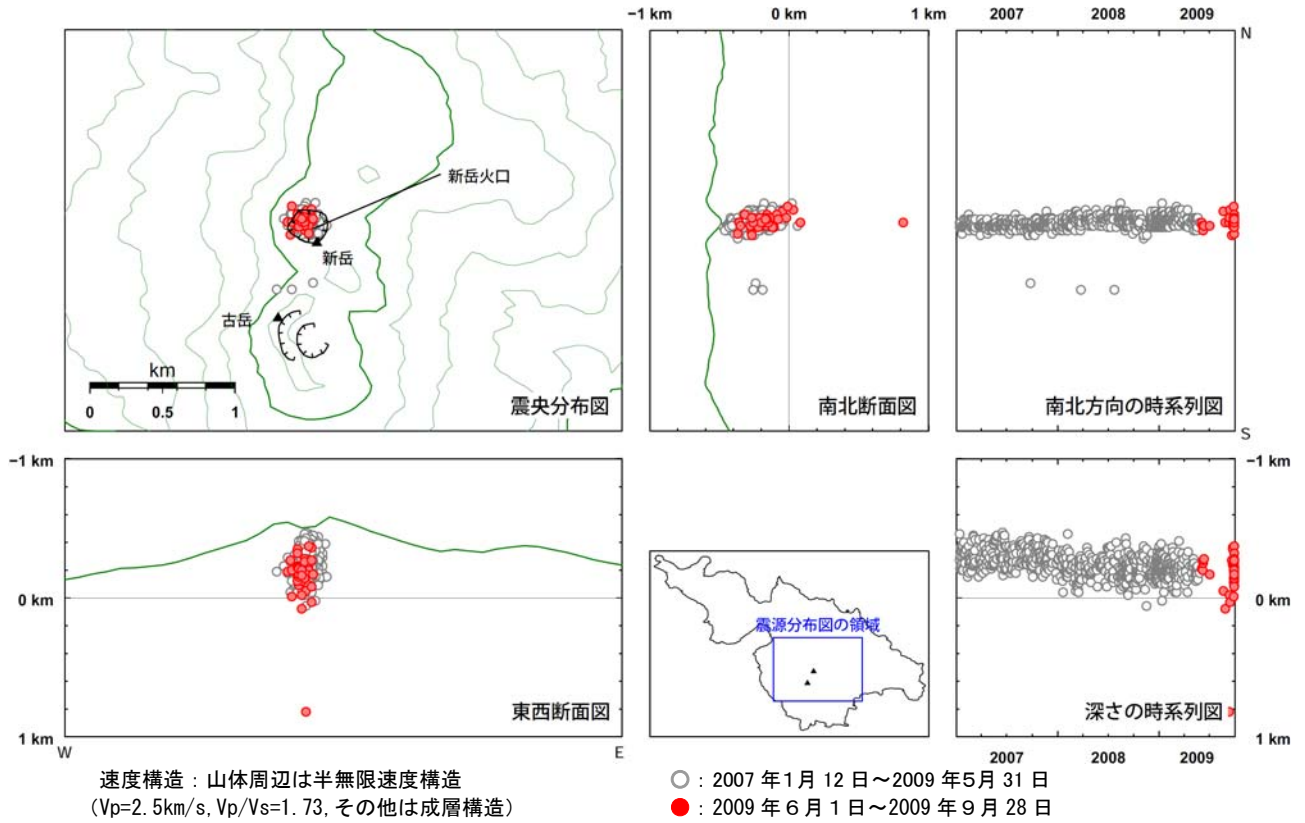
<6月1日～9月28日の活動状況>

- ・遠望カメラ (新岳火口の北西約3km) により、白色の噴煙を時々観測した。
- ・火山性地震は少ない状態で経過していたが9月27日以降増加し、やや多い状態が続いている。

\*2005年12月15～28日は京都大学の地震計で回数を計数した。

\*2002年12月22日～2003年1月11日は地震計1の機器障害のため欠測した。2005年7月9日～9月18日、2005年11月5日～12月14日は地震計1の機器障害のため地震計3で回数を計数した。

\*遠望観測2004年3月10日観測開始。



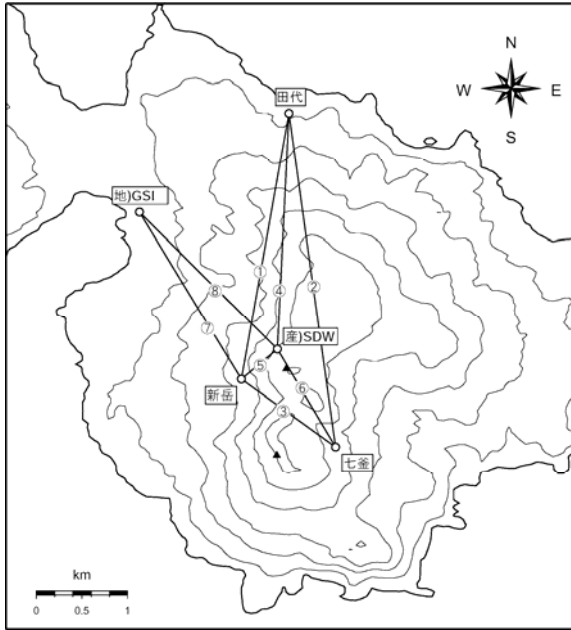
第2図※ 口永良部島 震源分布図 (2007年1月12日～2009年9月28日)

Fig.2※ Hypocenter distribution around Kuchinoerabujima Volcano (January 12, 2007 - September 28, 2009).

<6月1日～9月28日の活動状況>

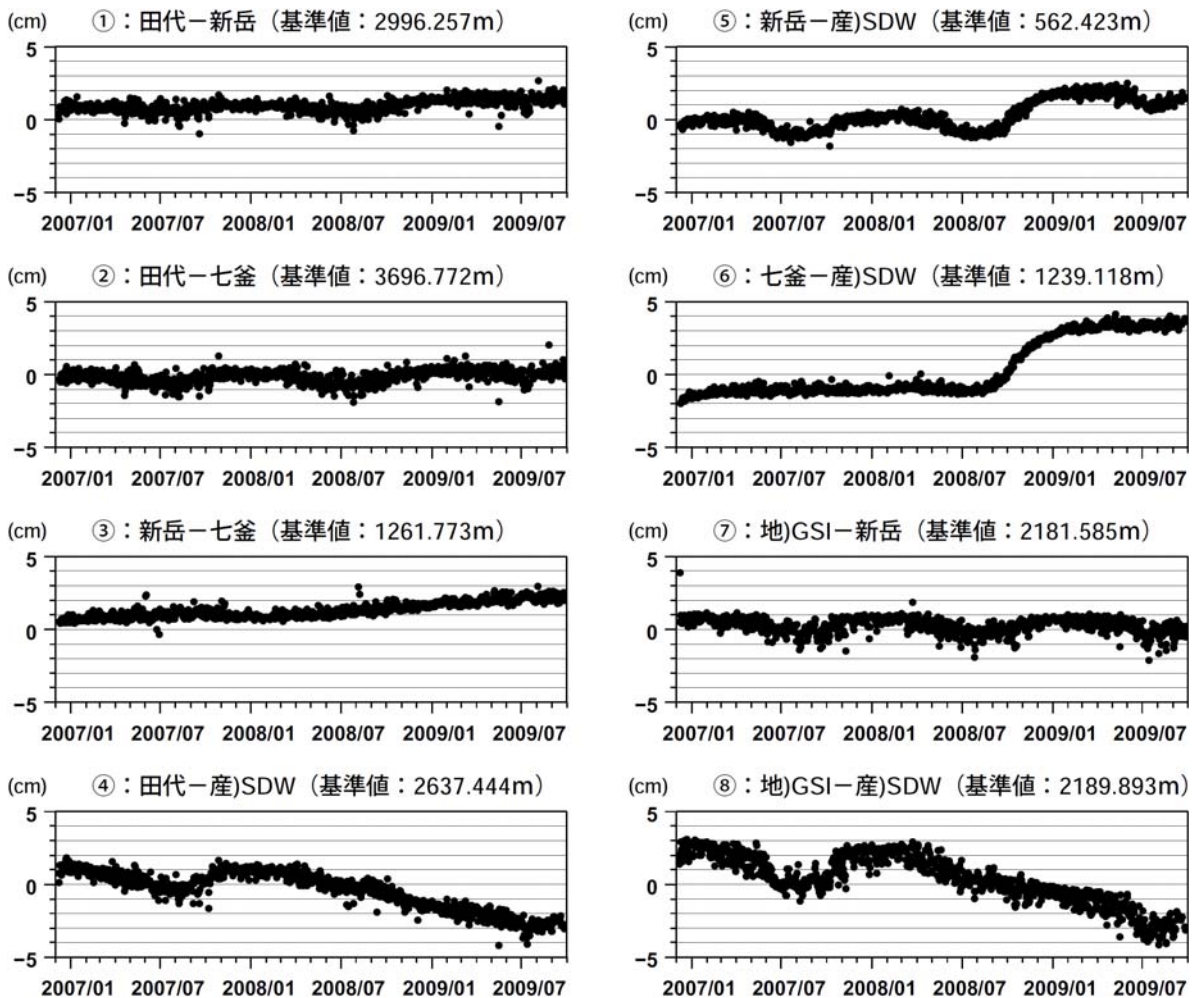
火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。



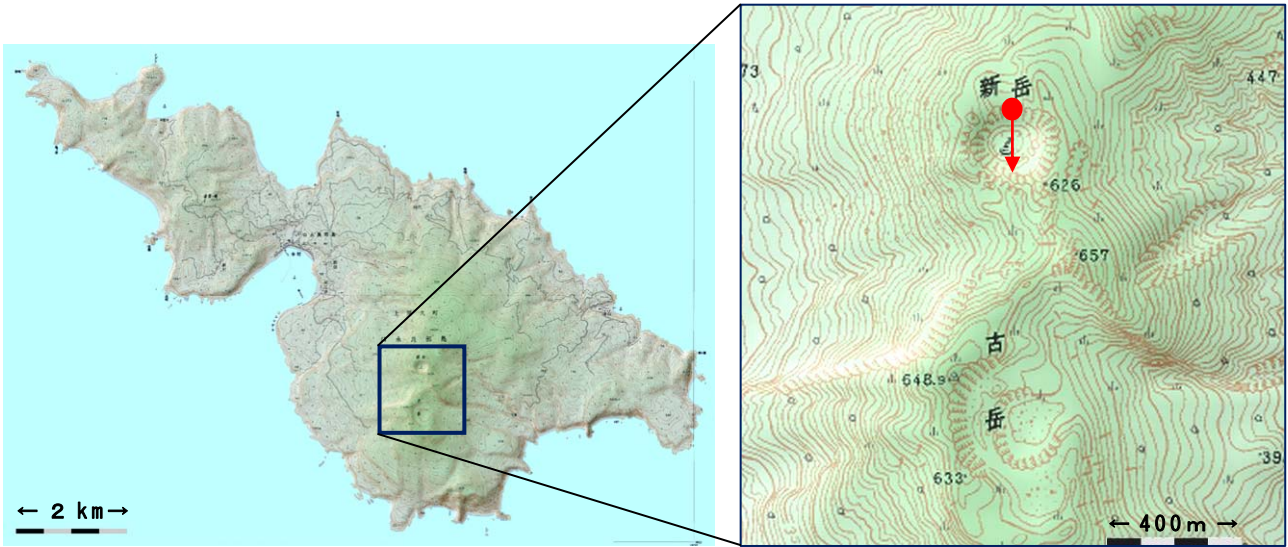
第3図 口永良部島 GPS 連続観測基線図  
Fig.3 Location map of GPS observation sites.

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』及び『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。



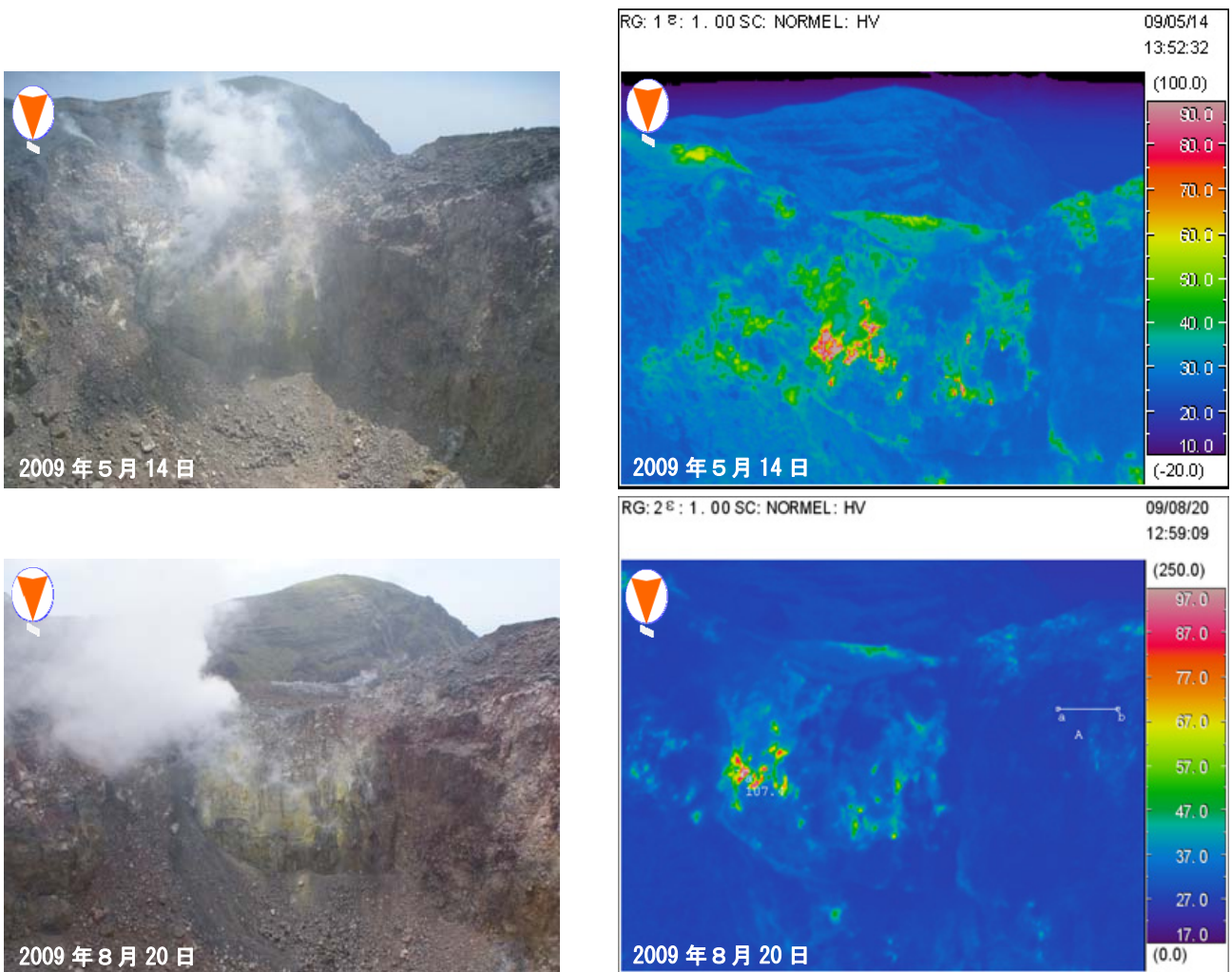
第4図※ 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化 (2006年12月10日～2009年9月28日)  
Fig.4※ Results of continuous GPS observations at Kuchinoerabujima (December 10, 2006 - September 28, 2009).

2008年9月から続いていた新岳火口浅部の膨張を示す変化は、2月頃から鈍化し6月以降認められない。  
この基線は図3の①～⑧に対応している。



第5図 口永良部島 地表面温度分布観測点位置図  
 Fig.5 Observation points of Thermal observation.

この地図の作成には、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。また、同院発行の『数値地図25000(地図画像)』を複製した。



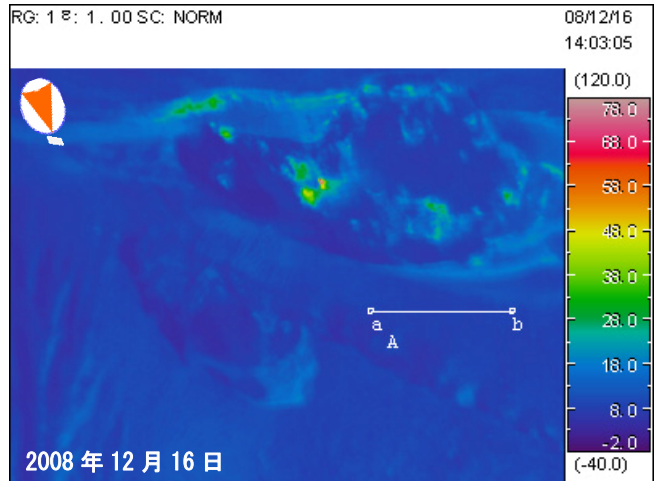
第6図 口永良部島 赤外熱映像装置による新岳南側火口壁の地表面温度分布(図5の●から撮影)  
 Fig.6 Visible and thermal images of Shindake crater of Kuchinoerabu-jima.

熱異常域の分布に変化は認められなかった。



2008年12月16日

海上自衛隊第72鹿屋航空分遣隊の協力による。

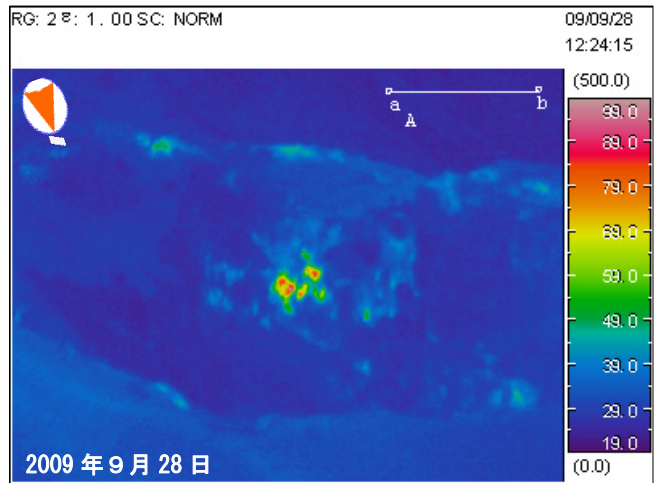


2008年12月16日



2009年9月28日

第十管区海上保安本部の協力による。

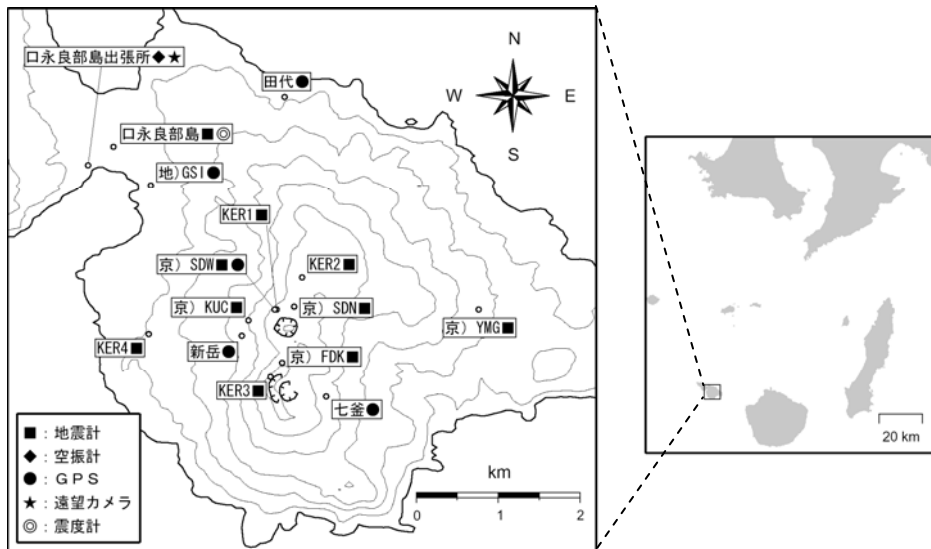


2009年9月28日

第7図 口永良部島 赤外熱映像装置による新岳南側火口壁の地表面温度分布

Fig.7 Visible and thermal images of Shindake crater of Kuchinoerabujima.

熱異常域の分布に変化は認められなかった。また、新岳火口及びその周辺の状態に変化はなく、新岳南側火口壁で引き続き噴煙活動が認められた。



第8図 口永良部島 観測点配置図

Fig.8 Location map of permanent observation sites in Kuchinoerabujima volcano.

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。